

経営方針 ~ 頭取メッセージ ~



現在、金融界は大きな変革の時代にあります。

平成14年度は、国際情勢が不透明感を増す中で、わが国経済もデフレの長期化、株価の低迷等多くの不安材料を抱えた厳しい一年でありました。先行きの不透明感は依然根強く、本格的な景気回復にはまだ時間がかかるものと思われれます。

金融界におきましても、大手金融グループの本格的始動や異業種からの銀行参入、規制緩和の進展など金融機関を取り巻く環境はこれまで以上に厳しさを増しております。

しかしながら、見方を変えれば、わが国の金融機関が多くの可能性を秘めた新たな時代を迎えたと捉えることもできます。現在の経営環境は確かに厳しいものの、当行が新たに飛躍する絶好のチャンスが到来したと前向きに理解することが重要と考えております。

当行では、平成13年4月から平成16年3月までの3年間を計画期間とする「新世紀 第一次中期経営計画」(i-PLAN)を推進しております。計画では、その基本となる考え方として「誰よりも深くお客さまのことを考える銀行」を掲げ、重要課題である「収益力の強化」、「情報の戦略的活用」、「企業風土の変革」に取り組んでおります。今期は計画の最終年度であり、種々の目標達成に向け邁進してまいります。

昨年11月に当行は創立70周年の節目を迎えましたが、今後も地域のお客さまや株主の皆さまに信頼され、評価される銀行を目指してまいります。

当行が対処すべき課題と対応

収益力の強化

「新世紀 第一次中期経営計画」に掲げた目標を達成し、より強固な経営体質を築いていくための最重要課題は、「収益力の強化」であります。当行は収益構造の改革を目指した諸施策を展開しております。具体的には個人貸出及び中小企業貸出増強による貸出構造の変革、リスクに見合った貸出金利の確保、為替手数料増収や預り資産増大による役務取引等利益の増強、人件費・物件費等コスト削減などの施策により収益力の強化を図ってまいります。

資産の健全化

資産の健全化を重要な経営課題と認識し、不良債権の発生防止に努めるとともに、不良債権の積極的な処理を進めております。お取引先の経営改善支援、厳格な自己査定の実施と適正な引当金の確保、オフバランス化（最終処理）の3点を不良債権の処理方針の柱として資産の健全化に取り組んでおります。

当行は、「お客さまとの創造的な関係を深めること」を企業理念に掲げております。資産健全化への取り組みについても、お取引先にとって何が最良なのかを常に考え、お取引先の経営改善努力への支援を最優先することを基本としております。

今後も、群馬銀行グループの機能を最大限に活用した多角的経営支援を行うなど、地域経済の活性化に貢献するとともに、貸出資産の健全化を促進してまいります。

経営管理体制の充実

経営管理体制の充実は、収益力の強化、資産の健全化と並ぶ重要な経営課題と位置づけております。当行は、経営の意思決定機能と業務執行機能の分離を図るため執行役員制度を導入しております。また、役職員一人ひとりが高い倫理観を持ち業務を行うことが、社会からの信頼確保に不可欠と考え、グループ会社を含めたコンプライアンス体制の充実を図っております。

さらに、銀行の抱えるリスクが急速に多様化・複雑化する中、各種リスクに適切に対応するため、規定の整備や管理体制の機能強化に取り組んでおります。

今後もコンプライアンス体制及びリスク管理体制に関する外部監査を実施するなど、経営管理体制の一層の充実に努めてまいります。

これからも「誰よりも深くお客さまのことを考える銀行」の実現に全行を挙げて取り組み、地域のお客さまのニーズに的確にお応えしていく所存でございます。

平成15年7月

取締役頭取 四方 浩